



一人でも多くの母親、子ども達が笑顔で毎日をすごせるように

松原市地域子育て支援センター 保育士 赤石 沙織

松原市がBPに取り組むきっかけ

松原市は大阪府南部の南河内にあり大阪市堺市に隣接しています。子育て支援センターができて22年になり、市内に5か所の子育て支援センターと5か所のひろばがあります。

子育て支援センターが松原市にできて以来、親子で一緒に遊ぶ会や講座、公園での事業などさまざまな取り組みをしてきました。中でも赤ちゃんの参加が多くなりお母さんから「赤ちゃんが泣いてばかりいる」「一日をどう過ごしたらよいかわからない」「どうやって遊ぶのですか」等と様々な相談を受ける事も多くなりました。それではと1歳までの赤ちゃんの集まる会を作ろうと赤ちゃんと一緒に遊ぶ会を始めました。「赤ちゃん二人話すこともないので楽しかった」等と好評でした。参加者が増え回数も増やして実施し、お母さん同士仲良くなり子育ての話もしていました。母が子育ての仲間を作る事ができ、一緒に大きくなっていくんだと感じていました。しかしお母さんに子育てのことなど、もっと気がついてほしいと感じたり、もっと早い月齢で参加してくれたら親子を安心させてあげられたのに等のジレンマが出てきました。

そんな中、子育て支援センターに奈良県大和高田市から見学に来られた時に、「BPというのがありますよ」「とっても良いですよ」と紹介していただきました。どのような内容かホームページを調べ、実施してみたいと思いました。幸いなことに上司からも理解を得る事ができ、予算を付けてもらえました。実施するなかで上司もお母さん方の和やかな様子を見たり、一緒に声を掛け合って帰る姿を見てBPのプログラムの良さを感じてくれました。

私もBPプログラムに参加できる!!

先輩が次々と研修を受け、ファシリテーターとして活躍している姿を横目で見ていただけでしたが、ある日、ファシリテーターのアシスタントとして、BPプログラムに参加できることになったのです。

でも、アシスタント…私で大丈夫なの? と不安で、始まるまでにいろいろとプログラムの内容を聞いて少しずつですが、勉強しました。その時にBPプログラムって、とても素晴らしい内容なんだと知りました。初めての子育ての時に、このプログラムに出会い、周りには同じ思いを抱えている親子がいることを知れるだけでどんなに心強いだろうか。このアシスタントを経て、私もぜひファシリテーターになれたら!! と感じました。そして当日、プロジェクトの操作、シート配りなどを任

されたのですが、それさえも緊張の一瞬でした。先輩ファシリテーターの進め方や親子の見守りを見ていると、こんなこと、私に本当にできるのだろうか? と不安が大きくなるばかり。黒子にならないといけない…普段の仕事の内容から考えると、それが一番難しいなと感じました。でも、今の子育ての現状を見ると、一人でも多くの親子に参加してもらいたい。実際、子育て支援センターに来られている多くの人達が、「私達の時はこんななかった」「もっと早くにしてほしかった」「2人目だけど参加してみたい」と口々に言っているのを聞くと、やはり思いを共有できる子育て仲間をつくるきっかけにもなるBPプログラムが求められているのだなと思い、不安はあるけれど、やってみる価値はある! と受講を決意しました。

刺激をたくさんもらった養成講座

大阪での養成講座でしたが、他府県からの参加者の方が多くて驚きました。はじめは、初対面の方ばかりでこれからどんなことが始まるのかな? と不安でしたが、受講者みんなで他己紹介や数珠つなぎゲームをしたり、いろいろとお話する機会があったので、自然と緊張がほぐれて期待が膨らんできました。

初日はBPプログラムの流れを教えていただき、2日目は受講者で担当を分けて模擬セッションをしました。模擬セッションは、家で自分の担当の部分テキストを読み勉強してきたつもりでしたが、実際に進めてみると緊張もあって思うようにいかず、時間配分や場作りの難しさを感じました。

長かったようであっという間に終わった2日間。BPプログラムの勉強だけでなく、受講者の方々と出会え、様々な地域での子育て支援の状況や、BPプログラムへの熱い思いを聞かせていただき、刺激をたくさんもらいました。

本番までは不安がいっぱい

養成講座を受けた3週間後にプログラムをすることになっていたので、さっそくBPグッズを請求し、準備をはじめました。参加者は、支援センターや4か月健診などでギリギリまで呼びかけ、15組の参加者が集まりました。

本番までは、決められた時間通りうまくできるだろうか? 参加者に安心して参加してもらえるだろうか? 話し合いの時に沈黙が続いたらどうしようか? と、不安がいっぱいでした。また、今回はファシリテーターが2人とも初めてということで、先輩ファシリテーターに見てもらいながら予行練習もしました。

自信をたっぷりもらえたBP

黒子になる難しさ

第1回目のセッション。1時間前に会場に入り準備を始めましたが、DVDプレイヤーの接続がなかなか上手くいかず、ものすごく時間がかかってしまいました。なんとか15分前に接続でき、ホッとしたところに1人目の参加者が到着しました。その後、順次参加者が到着しましたが、9時になって集まったのは半数ほど。BPプログラムは毎回時間通りに始めなければいけません、初回ということもあり、その時の判断で5分開始時刻を遅らせることにしました。参加者の遅刻という予想外のでき事でバタバタ、焦る気持ちで余裕がありませんでしたが、参加者を見ると、初めて会ったお母さん同士がプログラム開始前から会話を楽しんでおり、和やかな雰囲気にも少し緊張がほぐれて開始することができました。

プログラムを進める中で感じたのは、黒子になることの難しさです。参加者を観察していると、話し合いの中で聞き役になりがちなお母さん、授乳をされていてポストイットに書くことができないお母さん、交流タイムの時に全く話せず1人でお母さん…そのような姿を見ると、ファシリテーターとして見守らなければならないとわかっていても、みんなの輪に入れるように声をかけたほうが良いのではないかと、「困っているから手伝ってあげたい!」という思いが強くなり、葛藤しました。そして、つつい手を貸してしてしまった場面もありました。

反省がたっぷりの初回だったので、次こそは黒子に徹しようと臨んだ2回目、3回目のセッション。参加者にも変化がありました。「こんにちは～」と到着時から表情がにこやか、自分以外の子どもに声を掛ける姿もあり、参加者同士の距離が縮まってきているように感じました。初回と同じく、聞き役になりがちなお母さんや1人でお母さんもいましたが、様子を見守っているとお母さん同士で声を掛け合ってみんなが話せる雰囲気を作っています。また話し合いでも、次の活動に移りにくいほど盛り上がっていたり、時にはテーマと関係のない話をみんなで楽しそうにしていたり…時々、「テーマの話は進んでいますか～?」と声を掛けに行くこともありました。このような参加者の変化を見て、ファシリテーターが直接手を貸したり教えることが良いのではなく、参加者同士が話し合い、自分たちで答えを見つけていくことの大切さを実感しました。

まさかのハプニング

そして4回目のプログラムの日。朝からまさかのハプニングがありました。台風の影響で暴風警報が発令されたのです。もちろんBPをするのは危険なので、参加者全員に朝から電話をしてその日の中止を伝えました。そして新たに会場を予約し、1週間後に延期日を設定。それまでと同じ曜日に予約できなかったため、都合が合わ

ずに参加できないお母さんや途中までしか参加できないお母さんが出てしまったことが残念でした。そんなバタバタの4回目でしたが、翌週に、無事に最後のセッションをすることができました。2週間空きましたが、にこやかに来てくださった参加者を見て、こちらも嬉しくなりました。

最後の1人ひとと言では、「BPプログラムに参加してよかった」、「毎回楽しみにしていた」、「1人で悩んでいたことをここでみんなと共有できてよかった」、「他のママがどうやって赤ちゃんと接しているのかを見て勉強になった」などいろんな思いを話してくださり、BPプログラムがお母さんたちにとって仲間作りをする良い場になっていたことが伺え、よかったと思いました。

始める前は不安でいっぱいだったBPプログラムでしたが、終わってみればあっという間の1か月で、緊張しながらも楽しんで取り組めたように思います。参加したお母さんだけでなく、赤ちゃんたちも互いに刺激しあい、成長が見られ、参加者みんな喜び合えたこともすごく素敵な経験になりました。

支援を要する母親にも

ほとんど知識のなかった私達が、養成講座を受け、必死にBPプログラムの初日を迎え、15名の親子を前に不安と緊張でいっぱいでした。でも、「おはようございます」と笑顔で会場に入ってきて「BPプログラムに参加してすごく良かった」「わが子に向き合うことが楽しくなってきた」「パートナーとの会話も増えました」「同じ悩みを持つ子育て仲間に出会えてよかった」と嬉しそうに話して下さるお母さんを見ていると、逆に自信をたっぷりもらえた様に思います。現在、松原市では広報、産婦人科でのチラシの設置、地域保健課の「こんにちは赤ちゃん事業」、4か月検診でのチラシの配布で参加者を募集しています。自分から参加を希望する母子がプログラムを受けているのですが、それ以外の支援を要する母子（特定妊婦、要保護児童）への参加を促すことに取り組んでいきたいと思っています。一人でも多くの母親、子ども達が笑顔で毎日を過ごせるよう、スタッフ一同一丸となって前進していきたいと思っています。

お世話になったサポーターの先生、共に受講し頑張った仲間たちに感謝しております。

